

公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金 成果報告書

代表者氏名	福田恭介	所属	福岡県立大学
研究会等名称	まばたき研究会 日本心理学会第 85 回大会公募シンポジウム SS-039		
成果概要	<p>1) 参加人数 48 名 (認定心理士・非会員 Web 開催のため不明) 2) 集会の目的・成果</p> <p>目的 2021 年 9 月, まばたき研究会との共催で日本心理学会第 85 回大会公募シンポジウムが開催された。コロナ禍のため Web 開催となり, 2 時間の動画がオンデマンドにより 9 月 1 日から 8 日にかけて 1 週間配信された。</p> <p>まばたき研究会の目的は, 最も非侵襲的な生理指標であるまばたきによって心理過程を説明することに加え, 多方面への応用を検討するために, 多方面におけるまばたき (瞬目) 研究を紹介していくことである。これによりまばたき研究の一層の発展を目指している。</p> <p>成果 本会は, 大森慈子 (仁愛大学) の司会により始まり, 福田恭介 (福岡県立大学) がシンポジウム企画「認知過程とまばたき・発生的過程とまばたき」の趣旨について, まばたき研究会の歴史と 2 人の話題提供者の紹介が行われた。</p> <p>1 人目の話題提供者, 田多秀興 (元 白鷗大学) からは, 「文明化過程と内因性瞬目に関する予備的研究」と題して, これまで個体発生とともに瞬目が獲得されてきたとする研究 (杉山・田多, 2010) および, 系統発生とともに獲得されてきたとする研究 (Tada, Omori, Hirokawa, Ohira, & Tomonaga, 2013) を紹介し, 新たに文明化過程と瞬目との関係について紹介した。そこでは, 南米先住民の瞬目発生の様子を NHK の放送資料を基に分析した結果, 先住民の瞬目率 5.6 回/分が文明圏の瞬目率 20.0 回/分より低いことを示し, 瞬目率変化に文明化という視点が必要なことを提案した。</p> <p>2 人目の話題提供者山田富美雄 (関西福祉科学大学) からは, 「ギャンブリング課題中の瞬目分布 —聴衆の存在が影響するか?—」と題して, これまで情報処理中は瞬目が抑制され, 処理終了とともに発生する (福田・山田・田多, 1992 : Yamada, 1998) とする研究が紹介され, ハイリスク・ハイリターンおよびローリスク・ローリターンのギャンブリング課題について, 1 人で遂行する場合と 4 人で遂行する場合で調べた。その結果, ギャンブル課題遂行のために決定ボタンを押す直前で瞬目は抑制され, ボタン押し直後から瞬目は発生し, ボタン押し後 1 秒付近でピークを示した。このことから, ギャンブル行動と他者の存在が瞬目の抑制と発生に関係がある可能性を提案した。</p> <p>指定討論者の田中裕 (川村学園女子大学) は, 田多の発表に対しては「現代文明と隔離した人の瞬目は何を教えてくれるのか?」という質問が出された。これに対して, 田多は個体発生, 系統発生, 文明化に伴って瞬目率が増加するのは刺激の複雑化が関係しているのであろうと回答した。また, 山田の発表に対しては, 「瞬目のふるまいから意思決定過程をより精緻に説明できないか?」という疑問が出された。これに対して山田は, 4 人条件では意思決定中の瞬目が活発で 1 人条件では抑制解除が速いことを示し, 他者の存在が切り替えの遅れをもたらすことが瞬目から示されたと回答した。</p>		

(様式5)

2022年 1月 15日

日本心理学会研究会 2021年度会計報告書

研究会名称 まばたき研究会

研究会番号 21018

助成金額 ¥15,000

年月日	項目	金額
2021年9月18日	講師謝礼 (1名 : 田多英興先生)	¥15,000

支出合計 ¥15,000